

第94回 日本食品衛生学会学術講演会

講演要旨集



徳川家康公(宝台院所蔵)



大御所
四百年祭

期日 平成19年10月26日(金)~27日(土)

会場 静岡県立大学(静岡県静岡市駿河区谷田52-1)

社団法人 日本食品衛生学会

第 94 回日本食品衛生学会学術講演会

- 学 会 長** 藤井建夫 (山脇学園短期大学教授)
- 講演会会長** 木苗直秀 (静岡県立大学副学長・食品栄養科学部教授)
- 日 時** 平成 19 年 10 月 26 日 (金) 10:00 ~ 17:15 (懇親会 17:30 ~ 19:30)
平成 19 年 10 月 27 日 (土) 9:00 ~ 16:10
- 会 場** 静岡県立大学
〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52-1
TEL&FAX : 054-264-5528
- 主 催** (社) 日本食品衛生学会
- 共 催** 静岡県立大学、静岡県立大学グローバル COE プログラム、静岡県、静岡市
- 講演会事務局** 静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室内 (担当: 増田修一、田中睦美)
〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52-1
TEL&FAX : 054-264-5528
E-mail: 94shoku@u-shizuoka-ken.ac.jp

表紙解説: 徳川家康像 (宝台院所蔵) 及び大御所四百年祭シンボルマーク

宝台院は家康の側室、二代将軍秀忠の生母 (西郷の局) の菩提寺で、西郷の局の法名「宝台院殿」から名付けられた。江戸初期を代表する寺院建築として豪華絢爛の堂々とした大伽藍で、かつては狩野派による障壁画で飾られた建物や、最後の将軍徳川慶喜公が謹慎されていた部屋など、宝台院は国宝として注目された。昭和 15 年の静岡大火で焼失したが、現在、西郷の局の五輪塔が往時の面影を残して伽藍の一隅に建っている。

大御所四百年祭 (正式名称: 大御所家康公駿府城入城四百年祭) は、徳川家康公が大御所として駿府城に入城された 1607 年から四百年となる 2007 年 (平成 19 年) を大御所年として、家康公の功績を顕彰するとともに、「人間愛」「平和」「国際交流」「都市づくり」をキーワードに、『品格ある賑わいに満ちた都市』を創造していくものである。開催期間の平成 19 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月には、シンボル事業である「大御所スタイルフェスタ」をはじめ、様々なイベントが開催されている。

このシンボルマークは大御所の「大」の字をモチーフに、人型を意識した安定感のある末広がりの中に、英文字の「O」を組み合わせている。「大」の字は、大御所の「大いなる力・愛・心」を持ち合わせるものであり、円満の象徴としての「O」のリングを抱きかかえ、包み込むような意匠は、家康公の羊歯 (しだ) の前立ての兜 (かぶと) をイメージしている。また、末広がりにも通じる「大」の字を、人に見立てたときには、あたかも幼子の生命のように、人間にとってかけがえのないものを守る、気高く優しい姿にも見えるというように、さまざまな解釈ができる。

大御所四百年祭: <http://www.oogoshi400.jp/index.htm>

日 程

月 日	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	E 会場
	大講堂	看護学部棟 4F, 13411 教室	経営情報学部棟 1F, 4111 教室	小講堂	体育館	経営情報学部棟 1F, 4109 教室	体育館
10 月 26 日 (金)		一般発表 (B-1~B-7) 10:00~11:45	一般発表 (C-1~C-7) 10:00~11:45	一般発表 (D-1~D-7) 10:00~11:45	ポスター展示 (P1~P37) 10:00~	技術セミナー 10:45~11:45 AOAC インターナショナル 日本セッション	企業展示 10:00~17:15
		ランチョンセミナー 12:00~13:00 ジール株式会社	ランチョンセミナー 12:00~13:00 77 ライトハイ システムズジャパン株式会社	ランチョンセミナー 12:00~13:00 77 レント・ テクノロジー株式会社		ランチョンセミナー 12:00~13:00 サモフィッシャー株式会社	
			技術セミナー 13:20~14:20 パリアテクノロジー株式会社 ジャパンリミテッド		ポスター発表 (奇数番号) 13:20~14:20	技術セミナー 13:20~14:20 AOAC インターナショナル 日本セッション	
	学術講演会会長・ 学会長挨拶 14:30~14:45				ポスター展示 (P1~P37)		
	特別講演 1) 14:50~16:00 2) 16:05~17:15						
懇親会 (学生ホール) 17:30~19:30							

* : 評議員会は管理棟 3F 第 3 会議室にて、12:00~13:00 で開催

月 日	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	E 会場
	大講堂	看護学部棟 4F, 13411 教室	経営情報学部棟 1F, 4111 教室	小講堂	体育館	経営情報学部棟 1F, 4109 教室	体育館
10 月 27 日 (土)		一般発表 (B-8~B-15) 9:00~11:00	一般発表 (C-8~C-15) 9:00~11:00	一般発表 (D-8~D-15) 9:00~11:00	ポスター展示 (P1~P37)	技術セミナー 日立ハイ テクノロジー株式会社 10:30~11:15	企業展示 9:00~16:00
	教育講演 11:20~12:10						
		ランチョンセミナー 日本ウォークス株式会社 12:20~13:20	ランチョンセミナー 西川計測株式会社 ノグス株式会社 12:20~13:20	ランチョンセミナー 金印わさび株式会社 12:20~13:20			
		技術セミナー ジール株式会社 13:40~14:40		技術セミナー 日水製薬株式会社 13:40~14:40	ポスター発表 (偶数番号) 13:40~14:40		
	一般発表 (B-16~B-20) 14:55~16:10	一般発表 (C-16~C-20) 14:55~16:10	一般発表 (D-16~D-19) 14:55~15:55	ポスター展示 (P1~P37) ~16:10			

(社) 日本食品衛生学会 第 94 回学術講演会プログラム

平成 19 年 10 月 26 日 (金) ~ 27 日 (土)
静岡県立大学谷田キャンパス (静岡市駿河区谷田 52-1)

挨拶 A 会場 (大講堂)
10 月 26 日 (金) 14:30~14:45
学術講演会会長挨拶

静岡県立大学副学長 木苗直秀

学会長挨拶

山脇学園短期大学教授 藤井建夫

特別講演 A 会場 (大講堂)
10 月 26 日 (金) 14:50~17:15

座 長 : 木苗直秀 (静岡県立大学)

1) 「食品安全委員会の活動」

内閣府食品安全委員会委員 長尾 拓

2) 「食品とがん研究の最前線」

国立がんセンター研究所所長 若林敬二

教育講演 A 会場 (大講堂)
10 月 27 日 (土) 11:20~12:10

座 長 : 出川雅邦 (静岡県立大学)

「食品の効果と医薬品との相互作用」

静岡県立大学薬学部教授 山田静雄

超微細高密度オゾン水の *Salmonella* Enteritidis に対する殺菌効果と応用

動物衛生研究所 ○高木昌美
(株) ネイチャーズ 松村栄治、萩原信子

【目的】オゾン水は、その強い酸化力により、細菌の細胞膜を瞬時に破壊・分解して即効的な殺菌性を示し、消毒薬に比べ残留性がないことや、耐性菌が派生しにくいこと、人・動物に対する安全性等から、医薬品に頼らない対策が要望される畜産分野や公衆衛生分野における応用が期待されている。しかし、オゾン水生成法の違いにより、安定性・有効性に差があることも事実である。今回、超微細高密度オゾン水を用いた *Salmonella* Enteritidis(SE)に対する殺菌・消毒効果の検討を行った。

【材料・方法】オゾン水生成は、『ナノピコオゾン水™生成装置』（ネイチャーズ社製）を用いた。株は、リファンピシン耐性 SE HY-1 株を用いた。菌液 (10^8 個/mL) をオゾン水 (水温 $10\sim 11^\circ\text{C}$) に添加、室温で 10 分間反応させた後、菌分離を行い、有効水量、有効濃度、反応時間の検討を行った。鶏糞材料、市販鶏卵・鶏肉を用いた菌の添加回収試験を実施した。鶏糞材料に菌液 (10^8 個/mL) を混和し、室温、10 分間攪拌処理した後、菌分離を行った。鶏肉・鶏卵材料は、菌液を塗布し、室温で 5 分間放置後、10ppm 濃度オゾン水(鶏卵： $10\sim 11^\circ\text{C}$ 、鶏肉： 14°C) を流速 80mL/秒の噴射方法で処理した。材料を、HTT 培地 (栄研) に浸漬、室温 10 分間静置後、材料を取り出し、培地を増菌培養した後、菌検出を行った。分離は、リファンピシン加 DHL 寒天培地 (栄

研) を用い、遅延二次増菌法による分離も併せて実施した。

【結果】HY-1 株 (10^8 個/mL) 1mL に対し、500mL が有効水量で、この対比以下の水量では殺菌効果は得られなかった。最少有効濃度は、2ppm でも殺菌効果は認められたが、4ppm で十分な殺菌効果が認められた。反応時間の検討から、オゾン水添加直後に効果が認められ、瞬間的に作用していることが示された。オゾン水生成後の効果持続では、室温、30 分放置した場合でも十分な殺菌効果が確認された。1 時間放置した場合殺菌効果は低下し、2 時間以上では効果はなかった。鶏糞材料では、10ppm 濃度、オゾン水温 $10\sim 11^\circ\text{C}$ 、1:3000 比の水量で十分な殺菌効果が認められた。 $16\sim 17^\circ\text{C}$ では、水量増加により菌数の減少傾向があり、若干の効果は示されたが、十分な効果は得られなかった。鶏卵材料では、10ppm 濃度のオゾン水 1 分間の噴射処理により、殻表面の殺菌効果が認められた。鶏皮に 10^2 個/mL を塗布した鶏肉材料の場合、10ppm 濃度のオゾン水 1.5 分間の噴射処理で殺菌効果は認められた。

【考察】超微細高密度オゾン水は、文献等の比較から、従来と比較し、安定しており、低い濃度でも SE に対し十分な殺菌効果を示した。水量や水温に影響されるが、有機物存在下でも殺菌効果が確認されたことから、畜舎や処理場等での消毒に有用である事が示唆された。

第 94 回日本食品衛生学会学術講演会

講演会会長： 木苗 直秀 （静岡県立大学副学長）

共 催： 静岡県立大学
静岡県立大学グローバルCOE
静岡県
静岡市

運営委員： 池田 伸顕 （財団法人 静岡県生活科学検査センター）
小澤 一弘 （株式会社 中部衛生検査センター）
金田 一秀 （静岡英和学院大学短期大学部）
清水浩司郎 （静岡市環境保健研究所）
下位香代子 （静岡県立大学環境科学研究所）
進士 一男 （浜松市保健環境研究所）
杉山 千歳 （浜松大学健康プロデュース学部）
関本 征史 （静岡県立大学薬学部）
出川 雅邦 （静岡県立大学薬学部）
長岡 恵 （国立医薬品食品衛生研究所）
中村 好志 （椛山女学園大学生活科学部）
西下 司 （株式会社 静環検査センター）
増田 修一 （静岡県立大学食品栄養科学部）
増田 高志 （静岡県環境衛生科学研究所）
松浦 裕司 （静岡市環境保健研究所）
山本 政利 （静岡県環境衛生科学研究所）

本誌に掲載された著作物を複写される方へ：

著作権者から複写権の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F

TEL : 03-3475-5618 FAX : 03-3475-5619

社団法人 日本食品衛生学会

第 94 回日本食品衛生学会学術講演会 講演要旨集

平成 19 年 9 月 28 日印刷

平成 19 年 10 月 1 日発行

発行所 社団法人日本食品衛生学会第 94 回学術講演会実行委員会事務局

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1

静岡県立大学食品栄養科学部食品衛生学研究室

TEL/FAX: 054-264-5528

印刷所 星光社印刷株式会社

〒422-8027 静岡市駿河区豊田 2 丁目 4-30

TEL : 054-284-9100